

高温・干ばつ対策 特報 2022・7月

発行日：令和4年7月14日
JA 中野市営農センター

観測史上最速の梅雨明け後、高温・干ばつ状態が続き水分ストレスによる生理障害が散見されております。
今後の気象状況・土壌水分状態に注意し、下記を参考に対策を講じてください。

気象特記

- ◆ 梅雨明け：6/27（平年比△22・昨年比△19）観測史上最速。 *6/21～7/2 連続真夏日以上観測。
- ◆ 6月下旬：真夏日 10（最高 36.8℃）平均気温 25.3℃（平年比+4.1） 降水量 28.0 mm（平年比 60%） 日照量 85.3 h（平年比 155%）
- ◆ 7月上旬：猛暑日 2（最高 35.7℃・7/10）平均気温 25.4℃（平年比+2.4） 降水量 57.0 mm（79%） 日照量 76.4 h（197%）
- ◆ 3か月予報：（気象庁）7・8月：平年に比べ晴れ間が多く、気温帯は高い見込み。 9月：平年並の経過見込み。

1. 共通

かん水

天候やほ場の水分状態、土壌条件にあわせて、適宜かん水を行う。尚、かん水設備のない地域では土の湿潤状態を確認し、かん水が必要な場合は、タンク等で水を運んで無駄のないように樹冠下を中心に散水する（ほ場面積の60%程度）。水量が少ない場合のかん水時間帯は夕方が望ましい。また、蒸散防止のため、敷きワラ・マルチ等を行う。

熱中症予防

炎天下の長時間に渡る作業はできるだけ控えてください。また、作業中は帽子等の日焼け防止対策を万全にするとともに、十分な水分補給と休息時間を確保し、体調がすぐれない時は作業を中止してください。

害虫対策

ハダニ類・シンクイムシ類・アザミウマ類等が発生中です。一定の間隔で定期散布を行い、密度抑制に努めてください。散布量は多めにし、死角が出ないように散布してください。

2. 果樹

① 立木（りんご、もも、他）共通

日焼け防止対策

主枝・亜主枝等の背面部分は日焼け果が発生しやすいため、徒長枝は全て切らずに間引く程度か、30 cm程度残して切除して、「日除け枝」を設ける。また、葉がない部分は、白塗剤・ワラ・段ボール等で日焼け防止対策を講じることも有効です。

新梢整理

日焼けが発生しやすい南西方向の樹冠外部の切除量を減らし、日焼けが発生しないように配慮する。

② もも・プラム

- ◆ スモモヒメシンクイ等の被害発生中。晩生種等は10日以内の間隔で薬剤散布を進める。併せて、被害果は園外で処分する。
- ◆ 高温・多湿により成熟が進む傾向があるため、果肉硬度を確認しながら適期収穫を行う。
- ◆ もも等で日焼け果の発生が心配される場合は、除袋する2～3日前に袋の下部を破り、外気温に馴らしてから除袋を行う。

③ りんご・ナシ類

- ◆ 高温乾燥は果実肥大や日焼け果発生への影響が大きいので、定期的にかん水を行う。
- ◆ りんごで日焼けの発生が心配される園では、早急に園の南～西側に寒冷紗資材を設置する。
- ◆ 日焼け防止のため過度な徒長枝の除去を控え、日陰を適度に作る。
- ◆ 【要注意】全域でハダニ類発生中。場合により特別散布または定期散布を10日間隔で進める。*詳しくは各特報参照
- ◆ 収穫物（つがる・オーロラ他）を長時間高温下に置かないように注意する。

④ ぶどう

- ◆ 保水対策：幹まわり中心に敷きワラ等を早めに実施。
- ◆ 新梢管理：①水まわり後に実施（とび玉確認後実施） ②枝の込み合っている所を中心に実施 ③特に2m以上伸長した枝の管理と副梢の整理（混んでいる所の副梢は0枚、すいている所は2枚を目安に整理する）
- ◆ 収穫：とび玉発生等の生育状況を早めに確認し、収穫基準に達した房から順次収穫を進める。

野菜・水稻・花きの対策は裏面をお読みください。

3.野菜・水稲・花き

共通

- ◆急激な気象変化は、大きなストレスになるので、栽培品目の生育ステージや土壌条件等に応じて、かん水などの適正な管理を行う。
- ◆日焼けや着果不良を防止するため、寒冷紗や遮光資材を用いて、できる限り温度低下に努める。
- ◆アブラムシ類・アザミウマ類・オオタバコガ・ハダニ類発生中。状況にあわせて早めに薬剤散布を実施する。
尚、高温時の薬剤散布は薬害が発生しやすいため注意する。

① 野菜

- ◆カルシウム欠乏対策：高温・乾燥が続くとカルシウム欠乏による生理障害（心腐れ、縁腐れ、尻腐れ等）が発生しやすいので、夕方等涼しい時間帯にかん水を適宜行い、カルシウム資材の葉面散布を行う。
- ◆きゅうり、なす等の果菜類では不良果は、早期に摘果し、株の負担を少なくして草勢の維持を図る。古葉や病害葉は摘除する。

② 水稲

- ◆出穂以降は極端な土壌乾燥を避け、土壌水分を保持して根の老化防止と健全な登熟を図る。
- ◆【要注意】 高温により斑点米の原因となるカメムシ類が発生しやすいため発生状況を見て適期に防除を行う。

③ トルコギキョウ 抑制作型、2番花

- ◆生育適温 25℃ 30℃以上になるハウス内ですが、できるだけ涼しい管理を行う。寒冷紗設置セルキープ 1,000 倍散布（チップバーン 葉先枯れ防止）
- ◆防除・かん水は涼しい時間帯に行う。
- ◆本年から 6~8 月出荷 鮮度保持剤は、クリザール K20 -C 1,500 倍 をご利用ください（老化、花傷み抑制）。
秋冬は、花色と蕾の充実のために 糖・抗菌剤入りの 美ターナルセレクト 2 の利用が望ましいため、在庫がある方はご利用ください。

④ 露地品目（花）

- ◆ハダニ類発生初期は、下葉の葉裏から発生するため、ダニ剤は地際から葉裏にたっぷり散布しましょう。
- ◆過乾燥が続くと早期開花の原因となる品目もあるため、適期灌水に努める。敷きワラや、もみ殻等の施用で乾燥を防ぐことも有効。

*近年は、短時間の大雨（ゲリラ豪雨）に見舞われる事がしばしばありますので、園内の排水対策にも留意下さい。